朋友 For You

新春号

沖縄セントラル病院 広報誌

2019年1月発行 Vol .38

医療法人 寿仁会

沖縄セントラル病院

〒902-0076
沖縄県那覇市与儀1-26-6
TEL.098-854-5511 FAX.098-854-5519
URL http://www.jyujinkai.or.jp/ E-Mail o-centh1@nirai.ne.jp

ユートピア沖縄・クリニック絆

〒902-0076
沖縄県那覇市寄宮2-1-18
TEL.098-854-5551(代表) FAX.098-854-5519(代表) TEL.098-854-5531(絆)
URL http://www.utopia.jyujinkai.or.jp/ E-Mail o-centh1@nirai.ne.jp

Contents

❖ 年 頭 所 感

・新年明けましておめでとうございます（理事長・病院長　大仲　良一）　…… 1

・２０１９年に向けて（副病院長・健康管理センター長　長島　直樹）　…… 3

・ＩＴとＡＩの活用で介護人材不足へ貢献できるのか（総支配人　儀間　政秋）　…… 5

・２０２５年に向けて（事務長　新垣　和信）　…… 7

・２０１９年の抱負（医療技術部長　我謝　光茂）　…… 8

・２０１８年を振り返って（放射線科技師長　島袋　慶信）　…… 9

・「ひーふちぬみーから、てぃんどううがむん」（総務課　真泉　喜信）　…… 10

・何でも相談しやすい“支える事務部”を目指して（医事課　佐久川　卓）　…… 12

❖ 病院の基本理念・ＡＭＤＡ沖縄　…… 13

❖ 沖縄セントラル病院の歩み　…… 14

❖ セントラル・ケアビレッジ　ユートピア沖縄　…… 17

※　表紙の花：先島芙蓉　　撮影者：沖縄セントラル病院　メディカルフィットネスセンター長　金城　友一

～ ２０１９年（平成３１年）１月４日　新春年始式　（於：多目的ホール）～

２０１９年
年頭所感

沖縄セントラル病院
理事長・病院長　大仲　良一

新年明けましておめでとうございます

～ ２０１９年　年賀式　挨拶より ～

職員の皆さんそれぞれに新年度の計を立て、心機一転第一歩を踏み出されたことと思います。今年の干支は“イノシシ”ですが、目標達成のために猪突猛進することなく一歩一歩しっかりと歩をすゝめて頂きたいと願っています。

我が国は資本主義で自由経済をモットーとする国家である筈ですが、こと医療に関しては否応なしに完全に統制経済下であり、昨年度は医療・介護同時改訂と相俟って当院は予期に反した結果に陥っています。
各部署の職員が懸命に患者ご家族の為に奮斗して下さったのに、経営者の舵取りが甘かった事を反省しているところです。

本年度は法人寿仁会の理念即ち

ひたすら病める人々の為に
　健全なる人々の更なる健康増進の為に
　　集いし職員（とも）の生涯修養の館たらんことを

念頭に個々の職員が初心に返って零からの再出発の年になる様、或る時は厳しさにも負けない気概をもって患者、ご家族、更に地域の発展の為に奮斗いただきたい。これが延いては“貴方”の将来の倖せに繋がることを信じて!!

２０１８年の同時改訂から数ヶ月、その余波は暫く続くであろう。介護報酬改訂で医療、介護連携を一段と促す項目が数多く盛りこまれ、予断を許さない経営環境が今後一層強化されることが予測されます。

これらは一部幹部職員のみが制度改訂や、診療報酬改定の内容に精進していればすむ時代ではなくなりました。経営者が今回の制度改訂に従って検討し、諸々の計画を打ち出しても、各セクション全職員が多職種連携のもと、目標に向かって一致団結して進まなければ絵に画いたモチに終わってしまいます。

今年こそ、全職員の意識改革が喫緊の課題であります。

病院は在宅に目を向けることが必要不可欠である時代を迎えました。

この地域で生き残り発展していく為には、まず地域住民に求められる法人寿仁会でなければなりません。

医療をはじめ、看護や介護ニーズに応じて外来から病棟更に在宅まで継続的にフォロー出来る体制を急ぎ構築することが求められています。

高齢者は複数の慢性疾患を有する患者が多いが、各医師が“かかりつけ医”としての機能を十分に発揮して、同時に多職種協同で包括的に地域医療に参画して参ることが不可欠であります。

一次救急先方病院をはじめ、地域のクリニック、多くの介護事業所との密な連携を構築し、医師による訪問医療、訪問看護及び介護、更にＰＴ，ＯＴによる訪問リハビリ等を積極的に推進することであります。即ち、病院、ユートピアが密に連携して多機能化して地域住民を幅広くサポートしなければならない時代を迎えました。

周辺の医療機関の動きを踏まえながら遅れをとらないように、早速スタートの号報を高々に鳴らしたいと考えています。　全職員一致団結して邁進して参りましょう。

【本年度の重点目標】

① 増患対策と実践　：　経営を向上させる為には1床当たりの平均単価を上げる必要があり、その為には先ず満床を目標に、その上で回転率を高めることが不可欠であります。入院患者を確保するには急性期病院をはじめ、後方介護施設から如何に選ばれる病院になれるかが重要な事である。
また回復期病棟では質の高いリハビリを提供し、アウトカムを示すことが最も重要であります。
また、急性期病院から選ばれる病院になる為には、“入院依頼を原則として断らないで、紹介があった際に早急に入院を受け入れられるように”入退院関係者で実践することです。尚、退院後の生活期リハビリまでＰＴ，ＯＴが担える体制が出来れば　更に患者や家族の安心につながるものであります。

② 訪問医療、訪問看護、訪問リハビリの早期実施

③ 医師による講演会（院内、地域公民館）

④ 近隣小中学校（寄宮中、真和志小、与儀小、神原小）校区における地域住民との密な交流の構築、（ユートピア ケアビレッジ構想事業の実践）

⑤ 高齢者患者の更なる増加に伴う認知症患者への新たな取り組み。

⑥ 職員間のコミュニケーションの充実

２０１９年
年頭所感

沖縄セントラル病院
副病院長・健康管理センター長　長島　直樹

2019年に向けて

～ ２０１９年　年賀式　挨拶より ～

新年おめでとうございます。
旧年中は格別のご厚情を賜り、誠にありがとうございました。

本来はここで今年の意気込みを気合をこめて語るべきなのでしょうが、最近読んだ本の中で気になったものがありましたので、抱負を述べるよりもその文章を引用してみます。それはアメリカの作家ジョージ・サンダースさんのスピーチです。

「さて、突然ですが、歳をとってから、私はよく、人生を振り返ってみて後悔することは何？と聞かれるんです。
お金をためてこなかったことだろうか？これは後悔していない。好きな子の前でドジをするような恥ずかしい出来事であろうか？いや、これすら後悔していない。

私が一番後悔していることは、これだ。　中学1年生だった時、１人の転校生が来た。エレンは小さくてシャイな子だった。彼女は、当時は年取ったおばあちゃんしか使わなかったようなメガネをかけていた。緊張すると自分の髪の毛を噛むクセがあった。
そんな彼女は、周りからいじめられていた。彼女が傷ついているのが目に見えてわかっていた。彼女の表情を今でも思い出すことができる。少しすると彼女は一人でいるようになった。
そして、彼女は、引っ越した。　それでおしまい。何の悲劇もドラマもなし。　彼女はある日突然やってきて、それで突然いなくなった。それで話はおしまいだ。
さて、私はこれを後悔しているのか？４２年もたった今、なぜ私はまだ彼女のことを考えているのか？他の子たちと比べて、私は彼女に優しい方だった。彼女にひどいことは一切言わなかった。実際、

彼女を守ることさえした。

それでも、人生の中で最も後悔しているのだ。

私が人生で最も後悔していることは、親切になれなかったことだ。少し安易に聞こえるかも知れないし、実行するには難しいかもしれないけれど、人に優しくなるというのを人生のゴールにしてはいかがだろうか？

ここで一つ、大事な質問をしたい。どうして私たちは優しくなれないんだろう？

私の答えは３つある。

①私たちは宇宙の中心であると思っているから。
②私と私以外のものは、切り離されていて、別のものになってしまっていること。
③私たちは永久に生きると思っている。

私たちは、知らず知らず人の欲求よりも自分の欲求を満たそうとする。もっと優しい人になりたいのにもかかわらず、そうしてしまうのだ。

さて、ここでもう一つ、大事な質問をしたい。

どうやったら優しい人になれるのか？

これに対する答えは、優しさは年をとることで、自然に身に付くものだと思っている。私たちが年をとるにつれて、自分勝手でいることがどれだけ無意味なのか、実際にどれだけ非論理的なのかに気が付くのだ。ほとんどの人は年をかさねていくごとに、自分勝手でなくなり、人を愛するようになる。年をとるにつれて、あなた自身の存在は減っていき、愛に生きるようになるでしょう。あなたという人が、徐々に愛によって置き換えられていくのだ。

私たちは誰だって、若いときは不安でいっぱい。成功できるのか？自分で人生を作り上げていくこができるのか？

成功するのは悪いことじゃない。ただ、その過程で、自分と真剣に向き合う時間がないといけない。

自分で考える目標ではなく、成功とは他人からの評価なので、それには限りがないのだ。そして知らない間に、成功すること、に人生すべてが食い尽くされてしまう。

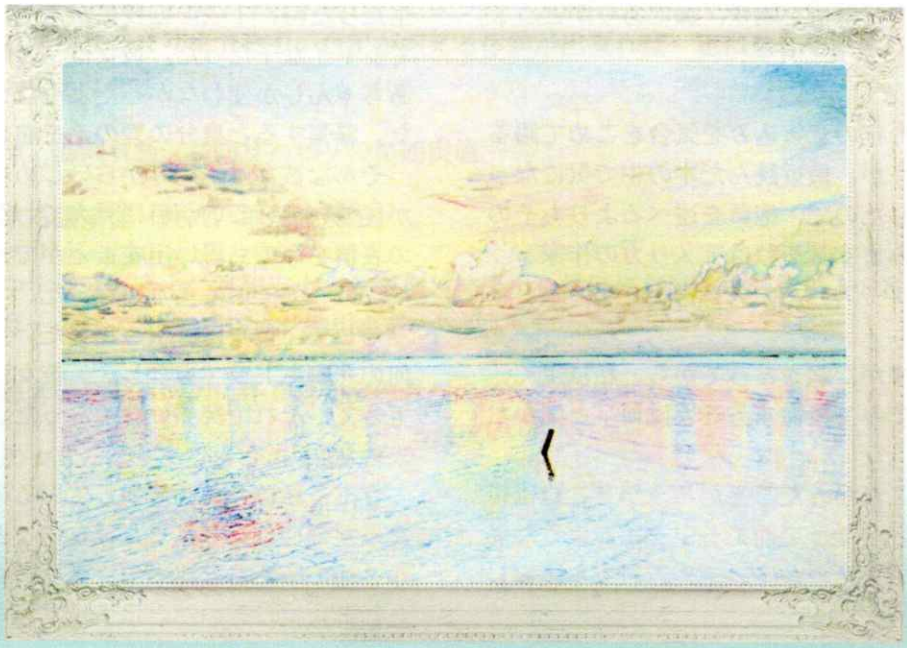
成功の定義は絶え間なく変わっていくけれど、人にやさしくしていくことは変わらない。

やさしさを見つける、旅に出よう。」

かなりざっくりと抜粋してしまったので、なんだか意味不明になってしまったかも知れません。ただ、この作者が述べていることに付け加えると、単に年を取るだけで優しくなれるのではなく、他人に気を配ったり、思いやることを意識していなくては、年を取るにつれて逆にだんだんと傲慢になってしまうケースが多くなると思います。

今年はきちんとした医療を目指したり、新しい知識や技術を取り入れて進歩していくことは当たり前として、周りの人たちに目を配ることができれば、と思います。

そして、仕事に追われながらも、そんな気持ちの余裕が持てるようになることを、自分自身の今年の目標にしてみたいと思っています。



～ 作：*Naoki Nagashima* ～

２０１９年
年頭所感

ユートピア沖縄
総支配人 儀間 政秋

ITとAIの活用で介護人材不足へ貢献できるのか

沖縄セントラル病院及びユートピア沖縄のスタッフの皆さん、明けましておめでとうございます。本年もどうぞ宜しくお願い致します。

今回は少し硬い話になりますが、今、沖縄では観光客の増加も相まって各方面で未曾有の人材不足になっています。入居者様へ少しでもより良いサービス提供をしたいと思っているここユートピア沖縄でも少なからず影響を受けております。特に介護職の人材不足は沖縄県に限ったことではなく、急速な高齢化の進展に伴い国の施策で「サ高住」など高齢者施設の建設が全国的に加速している事もあって、日本中で介護職の不足は大変深刻な状況になっています。

～ ２０１９年　年賀式　挨拶より ～

その様なこともあって先の国会で入管法を改正し、外国人人材の活用推進が可決されましたが特にメインとなるのが介護職であります。ユートピア沖縄の介護職の採用では、介護適正や勤務の持続性など安定性を重視しており、積極的な外国人材の採用は特に考えていません。あくまでも基本は、ハローワークや求人誌などでの募集に応募してくる人材の中に外国人がおれば賃金や他雇用条件など日本人介護職と変わることなく、同じ面接をしてユートピア沖縄の採用基準に合っておれば採用すると云う考え方です。

さて、話しは標題に戻って、ＩＴ（情報技術）とＡＩ（人工知能）で介護人材不足の現場に貢献できるのか、についてですが、ＩＴの活用面では現実に褥瘡（じょくそう）防止の為の体位変換補助装置や移乗リフト、腰痛防止介護補助具、電子見守りシステム、音声申し送り記録装置などIT機器＆ソフトウェアを使って介護の仕事を補助するシステムは実用化されており、国は補助金を出してそれらの導入を推進して介護職の心身面の負担を減らそうとしています。ユートピア沖縄でも次年度にはそれらの機器やソフトの導入を検討し介護スタッフの心身面の負担軽減を図ろうと思っています。

さて、ＡＩの活用はどうか、２０１９年はＡＩ実用化元年とも言われていますが、ＡＩ活用による一般介護現場での心身負荷軽減への貢献はまだまだ先になるのではないかと考えています。

現時点ではＡＩ機能を搭載した対話形式の癒し系ロボットによる高齢者との対話等での活用は色々な場所で試みられていますが、これらが本当に介護スタッフの仕事の負担軽減に役立っているのかと言われてみれば私には疑問であります。ＡＩが介護現場で本当に役立つのは、特に認知症のケアーではないだろうか。ロボットでなく、その人に合った対応が出来る熟練の介護スタッフの「技」を「見える化」することで他の多くの介護スタッフに「熟練スタッ

フの対応の技」の共有化が出来る様な介護スタッフをアシスト(補助・支援)するもの、これが介護現場に貢献するＡＩではないかと思います。

現在、認知症患者のケアーにＡＩを積極的に活用しようとしているのが静岡大学創造科学技術大学院の竹林特任教授グループです。

認知症では、もの忘れや理解・判断速度の低下、集中力・作業能力の低下などの「中核症状」に、患者のもともとの性格や周囲の環境などの要因が相まって、徘徊や幻覚、うつ状態といった「周辺症状」が現れます。現実には介護に関わる家族や介護スタッフにとって、この周辺症状のケアーが精神的・身体的に大きな負担となり社会問題化しています。竹中教授は「閉鎖的な介護現場において認知症ケアーは主観的になりがちで、エビデンス(科学的根拠)も不足している」と指摘しています。これまで認知症の方の内面的な状況を介護スタッフ個々の主観に頼っていた対応方法をＡＩの活用により熟練スタッフのノウハウや勘所を「見える化」して、表面的な行為・行動に振り回されることなく介護スタッフが適切な対応をする事で入居者様の安寧や介護現場での業務の心身的負担軽減に大きく貢献出来るのではないかと言っています。

また、認知症ケアーにおいては、は近年フランスの体育学教師であるイヴ・ジネスト氏が考案した「見る」「話す」「触れる」「立つ」という４動作を柱にした「ユマニチュード」の手法が注目されています。　ユマニチュードに基づくケアーによって、それまで暴れていた患者が穏やかになったり、寝たきりだった患者が起き上がったりと、まるで魔法にかかったかの様に劇的な変化をつげることが多く観察され注目されています。東京医療センターの本田美和子医師はユマニチュードの国内での普及に取り組んでいるがそのインストラクターを増やしていくのは容易ではないとのこと。そこへＡＩの力を借りてユマニチュードの手法を介護スタッフや家族への介護スキルの向上に活用しようとするベンチャー企業も登場しています。

私は、ＡＩが介護福祉分野で一番先に実用化されてくるのは居宅介護支援専門員(ケアマネージャー)の仕事ではないかと思っています。その活用により新人でもベテラン並みのケアプランが作成できてスタッフはご家族やご本人様との直接対面する時間を増やす事でより適切なサービスの提供が出来る様になり本当の意味でのＡＩの有用性が実感出来る様になるのではないでしょうか。

介護の仕事はこれまで介護者への身体的サポートを中心とした重労働的な面が相当な比重を占めていていましたが、その多くの部分で今後はＩＴ機器(装置)の活用により肉体的負担は軽減されてくると思われます。今後は増えて来る認知症の方への対応では「ひと対ひと」のコミュニケーションをベースとした介護対応能力の重要性が高まってくるものと思われます。そこへはＡＩのアシスト(補助・支援)により介護スタッフの認知症の方への介護対応能力が高まり、精神的な負担軽減は促進されてくるでしょう。ＡＩの介護領域への実用化の進展に期待したいものです。

最後に、私たちユートピア沖縄のスタッフは例え厳しい環境下であっても常に

> お客様がユートピア沖縄を選んで
> 本当に良かったと心から満足し
> 他に自慢したくなる様な
> サービスを提供すること

の品質目標をモットーに、お客様の満足度を少しでも引き上げ、喜んでもらえる様にプロとしての知識の習得と技を磨き日々の業務に勤しんでおります。どうぞ今後とも寿仁会セントラル病院の皆様の変わらぬご支援とご協力賜ります様よろしくお願い致します。

本年もセントラル病院、ユートピア沖縄のスタッフの皆様にとって良い年になります様に祈念いたします。有り難うございました。

２０１９年
年頭所感

沖縄セントラル病院
事務長 新垣 和信

2025年に向けて

新年明けましておめでとうございます。

昨年１１月より沖縄セントラル病院事務長に就任しました新垣和信と申します。

私の座右の銘は「やれば出来る、やらねばならぬ」です。これは他業種で働いていた時にＡＴＯＭ隊という市場特別攻撃隊の自己啓発宿泊研修で、大声で叫ばされた言葉です、これは上杉鷹山の「為せば成る、為さねば成らぬ何事も、成らぬは人の為さぬなりけり」を崩した言葉ですが私は「やれば出来る…」の方が自己に合っておりこれまでの様々な経験の中で、壁にぶち当たったときには自然にこの言葉が出てきて幾度となく壁を乗り越えてきました。

私はこれまで医療・介護業界で20年近く従事し、総務、人事、労務、経理、財務、システム関係等の経験を積んで参りました。その経験を活かし様々な視点から組織の改革を進めて行きたいと思います。

ただ一概に、改革と言っても全てを変えるのではなく善いところは伸ばし、改善が必要なところは、これまでの法人の歴史の流れに沿って乖離せず行っていきたいと考えています。

～ ２０１９年　年賀式　挨拶より ～

これからの地域医療は、２０２５年に向けて「地域包括ケアシステム」の構築が必須です。

それに対して当法人の担う役割は地域に根付いた医療、介護を提供することと地域との連携を密にすることです。

当法人においてハード面は整備されていますがソフト面が遅れています。それは、医療と介護の見えない大きな壁があり連携が取りづらいということです。この課題はごく一部の医療法人を除いて多くの医療法人がそうだと思います。なぜそれが起こっているのか？私は、こう考えています。医療界では「患者」と言い、介護界では「利用者」と言って呼称が違っています。素直に考えると「患者」とは治療が必要な方、「利用者」とはサービスを受ける方と受け取れます。それを相互において「自分の家族」と考え、医療、介護を「サービス」と考えることで分け隔てる事なく連携がとれると思います。

その「自分の家族」にとってどのようなサービスが必要か、次のサービスにどう繋げるか、医療から介護へ、介護から医療への連携が重要になってきます。そして、「地域包括ケアシステム」で最も大事なことは地域との連携です。

地域との連携は老人クラブ・自治会・ボランティア・ＮＰＯ・地域包括支援センターなどと協力し、生活支援・介護予防を行う必要があります。これは介護の分野と考えると思いますがサブアキュート、レスパイト等の医療の提供も想定しなければなりません。この連携を行うには地域との密接な関係を作る必要があります。特に地域自治会との連携がカギを握ると思います。それをどのようにして築いて行くかを考えなければいけません。これは、一人ではできませんより多くの職員の協力が必要です。また、医療・介護は多岐にわたる情報、連携も必要になってきます。

これから築いて行く「地域包括ケアシステム」は当法人にしかできない職員によるオリジナルのオンリーワンを目指し進めて行いたいと策定しています。

２０１９年
年頭所感

沖縄セントラル病院
医療技術部長　我謝　光茂

２０１９年の抱負

新年あけましておめでとうございます。

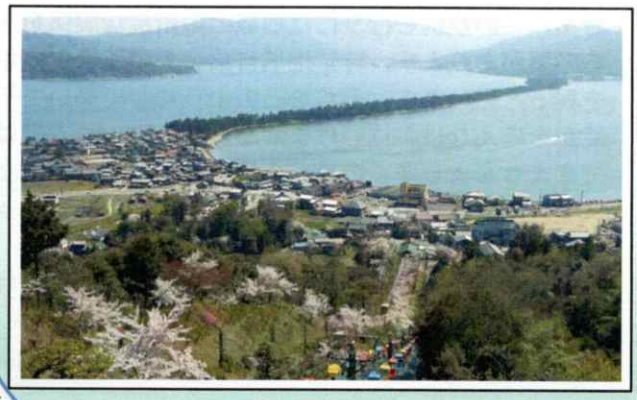
新年にあたり特に抱負はありませんが、ただ心身共に健康であればと思っています。

健康寿命が後何年か？自身としては２０年前後と予測しています。

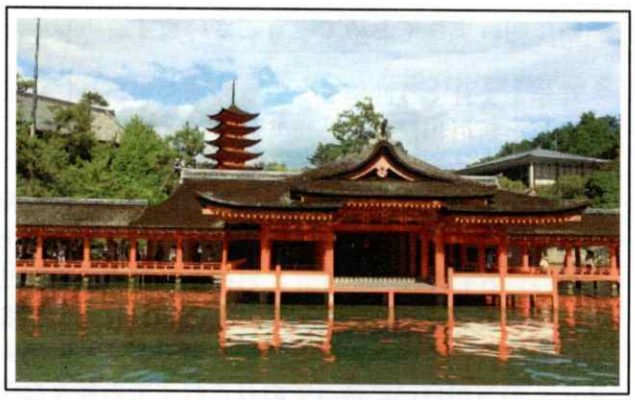
その期間に達成したい事があります。日本地図を広げて４７都道府県で、何処へ行っていないか見てみると16県（九州３県、中・四国３県、北陸２県、関東３県、東北５県）でした。

若いころ１１年間愛知県に住んでいて、その頃に勤めていた職場の慰安旅行や友達と多くの都道府県へ行きました。一番感動したのは、何と言っても富士山！　４０数年前に、富士登山を試みましたが、７合目あたりで天候不良のため、それ以上登ることが出来なくなり、後に引けず山小屋に１泊する事と成りましたが、そこでは雑魚寝状態でした。料金が８千円と記憶しています。何時か富士山の麓の離れたところから、富士山を眺めながら１週してみたいものです。

次に、日本三景で天橋立と厳島に行きましたが、宮城県の松島へは未だ言っていません。機会があれば行こうかと思っています。



～ 傘松公園から見おろす天橋立 ～



～ 厳島神社内の客神社 ～

また、高知県のよさこい節の唄に出てくる、はりまや橋を見て思わず笑ってしまいました。大きい橋かと思いきや数メートルの赤い小さな、かわいらしい橋でした。城めぐりもいいかと思います。幾つかの城を見ましたが、姫路城は４０数年前と４年程前に２度行きましが、見ごたえのある城です。

私は桜のソメイヨシノが好きで、桜前線は九州から北海道までを数週間掛けて北上し開花するので、是非、行く機会を作りたいと思います。

また、東北地方付近では栃木・福島の周りの県は行ったことが無いので、桜の咲く頃に城めぐりをしたいと思っています。愛知県の岡崎城で４０数年前に見た桜吹雪は最高でした。

各都道府県いたる所に名所があり、思いはたかぶるばかりです。全ての都道府県めぐりが達成できるよう、今年１年も心身共に健全で過ごしたいと思います。

寿仁会がますます発展する事と、職員の皆様方の更なる健康をお祈りします。

２０１９年
年頭所感

沖縄セントラル病院
放射線科技師長 島袋 慶信

２０１８年を振り返って

６５歳以上の老齢人口が増え続けている為、少子化に伴い我が国の人口減少の歯止めがきかないうえ、６５歳以上の割合が増え続けています。病院のこれからの方向性は高齢者の人口が増えるに伴い認知症患者さんも増え、介護を必要とする人々のケアや指導に対する備えも、避けて通れません。このような地域社会のニーズにしっかりと応えられる病院として、全職員の医療教育水準をあげる必要があります。

２０１８年は１月より６月まで、放射線科技師３名体制での業務のため、行き届かない点が多々あり、技術の向上にも支障をきたしかねない状態です。ほかの部署に迷惑をおかけ致しますが、一日も早い改善とガンマナイフセンターの更なる充実発展が望まれます。昨年から小西先生が常勤医から非常勤へと変わり第二、第四金曜日、土曜日だけのフォロー患者の診察及び治療となりました。小西先生の担当の患者の診察で放射線科の治療、ＭＲＩ撮影の対応で、治療は朝７時半から夜は１０時過ぎまでかかり、ＭＲＩは時間内では終わり切れない状態です。

４月に小西先生がクリニックを開業された後、新しく長崎県より森先生がガンマ治療に来て下さっています。

森先生がガンマ治療することになって、金曜日、土曜日だけで、治療がこなせない時は、木曜日の６時過ぎから治療が入ることもあります。又事前にガンマ治療計画を作成する必要があり、ガンマ治療がある週は月曜日から治療計画を作成する為、午後からはガンマ室に詰める状態です。

森先生のガンマ治療のやり方は連続で治療を行いますので、昼休みなしの状態でガンマ治療を行っています。月々の残業が増える状態が続いています。

７月から放射線科に新人技師が入職し、放射線技師４名での業務になっております。

新人技師は、７月よりＭＲＩ撮影、１１月からはガンマ治療を行っています。

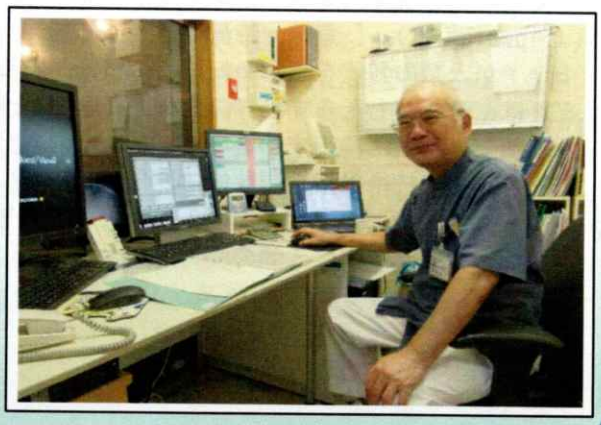
放射線科の戦力となっている新人技師に、南部医療センターで５歳児の脳動静脈奇形（ＡＶＭ）治療用のＭＲＩ撮影、ＣＴ造影撮影、アンギョウ画像のＣＤ作成などで技師間の細かな情報のやり取りなどもお願いしました。

森先生になって初めての時間を要する小児（ＡＶＭ）治療が無事終了しました。新人技師が時間を要するガンマ治療を行ってくれるので、昼休みを取ることが出来るようになりました。ただし、連続ガンマ治療はまだまだこれからです。ガンマ治療の常勤医者が決まらない場合は、来年も現在と同様な状況が続いて行くことを危惧しています。

来年は４月に新卒者が入職する予定で、放射線科本来の５人体制に戻ることとなります。

新卒者教育に力を入れ、ＣＴ撮影、ＭＲＩ撮影、マンモグラフィー、ガンマ治療をできるよう、育成に努めて行きたいと思います。

放射線科全職員の医療教育水準を更にあげ、医業に従事して参りたいと思います。



～ ２０１９年１月　ＭＲＩ室にて ～

２０１９年
年頭所感

沖縄セントラル病院
総務課 真泉 喜信

「ひーふちぬみーから、てぃんどううがむん」

＜ 火吹きの目から　天道拝む ＞
ひー ふち ぬ みー から　てぃん どう うがむん

琉球の先人の言葉です。

「 火吹き竹の小さな穴から、広い天空を仰ぐ 」 と言う事でしょう。

自分の小さな目線から、大きな 事柄・物事 を「見る、推測する、判断する」ということわざです。

先人たちは、独りよがりで、見識の狭い者になることなく、グローバルな視野・総合的な視野 更には天からの視点をもって全てにあたる大切さを説いています。

２００４年、今から１５年ほど前、著者 **レイ・カーツワイル** Ray Kurzweil **“The Singularity Is Near ～When Humans Transcend Biology～ （ ｼﾝｷﾞｭﾗﾘﾃｨ ｲｽﾞ ﾆｱ　ﾎｳｪﾝ ﾋｭｰﾏﾝ ﾄﾗﾝｾﾝﾄﾞ ﾊﾞｲｵﾛｼﾞｰ ）”** という米国人 発明家・未来学者の本を読む機会がありました。

そこに 『 現在人類は、シンギュラリティ (Singularity) 【 意味：特異性・人工知能 （ ＡＩ ） が人類の知能を超える転換点 (技術的特異点)。または、それがもたらす世界の変化のこと 】と呼ばれる新しい時代に移行する端境期 （はざかいき）にあり、ＩＴ技術は指数関数的に進化し ２０２０年までには驚くほどの進化を遂げ、ＡＩ （ 人工知能 ） は２０２９年に人間の脳力を超える。
そして、２０４５年には 医療・介護・事務・配送・清掃・警備・運転・製造業務をはじめ、その他地球上の大半の職業がＡＩにとって代わられる 』と記されていました。

医療従事者の皆様は 「 ヒトの遺伝子の塩基配列をすべて解析する 」 という **ヒトゲノム計画** をご存知でしょう。

この人類壮大とも思える遺伝子解析プロジェクトは、１％の解析が終わるまでに７年を要しました。
多くの科学者たちは 「 １％の解析に７年かかったのだから、すべてを解析するには試行錯誤を重ねその１００倍、７００年かかる 」 と予測しました。
しかし、天才と言われる レイ・カーツワイル博士だけは他の学者と異なり 「 １％も終わったのなら、もうほとんど終わりに近づいている 」。
この分野の研究は、毎年倍々あるいは指数的で結果が伸びていくから、次の年には２％、その次の年には４％、その次の年に８％ …… つまりあと７年で解析は全て終わりだ、と。
実際そのように７年後終了となりました。

さて、今後我々人類が 「 人間の脳力を超えたＡＩ （ 人工知能 ）」 を手に入れると、何が起こるのでしょうか。
天才著者レイ・カーツワイルによりますと、寿命が格段に延び医療そのものも変わるというのです。

どういう事でしょう？

私たち人間がもともと備える自己防衛力の１つが免疫系ですが、老化にともない顕在化してくる疾患に対しては役に立っていません。 進化は、長寿を選択してこなかったからです。

自然界にある食料の量には限界がありますし、２５歳を過ぎて子どもを育ててしまえば、進化上もうお役御免です。
実際１０００年前、人間の寿命は１９歳でした。
１８００年でも寿命は３７歳です。

しかし、発達したＡＩ （ 人工知能 ） は、人間の免疫力を強化することができます。
今のところ、スマートフォンのようなデバイス（ 機器 ） は、主にコミュニケーション手段として使われていますが、約１０年後の２０３０年までにはこれらのコンピュータ・デバイスが血球ほどの大きさになると言うのです。
血球サイズのＡＩロボットは、私たちの血液中に入り免疫力を拡張してくれます。その結果として、人間の寿命は延びるというわけです。

また人類は、拡張現実 （ ＡＲ ） を日常的に体験することになり、現在は ＡＲ デバイスを眼や耳や腕に装着していますが、２０３０年代になればそれらを 「 神経系の中で行う 」 ようになり、現実と寸分違わない世界を、脳内に作ることもできるようになると述べています。

最も重大なのは、思考などの高次タスク（ **課題・職務・仕事** ）を担う脳の新皮質を 「 直接インターネットのクラウド ＜ コンピュータ・ネットワークのこと ＞ につなげるようになる 」 ことでわれわれの思考そのものが拡大するということです。

約２００万年前、我々が類人猿 （ ヒト科：エイプ Ape ） から現代人 （ 現生人類：ホモ・サピエンス Homo sapiens ） に進化する段階で、新皮質が拡張し 前頭葉は大きくなりました。
新皮質は多層構造になっていて、新しい層が上に追加されるようにしてできています。そして、上の層になればなるほど、より知的で抽象的な高次のタスクを行います。
これにより、頭蓋骨も膨張したため出産時のリスクも大きくなったと言われています。
これ以上大きくなると、自然出産が不可能になりかねません。
それでも、十分な新皮質の拡大が人類の言語の誕生につながり、アートや音楽がさらに続きました。
いかに原始的な文化であっても、人間の文化であれば、必ず音楽が存在します。
他のどの動物にも存在しない特徴でしょう。

私たちは、同じような 「 **進化** 」 を遂げる時期に来ているようです。
新皮質の最上層をクラウドにつなげることによって、新皮質が 「 量的に 」 拡大をするというわけです。ちょうど200万年前、ヒト科エイプ類人猿に、皮質の拡大が行われたのと同じように。

しかも、今回は「一度きり」の進化に止まらない。

クラウドは情報テクノロジーですから、指数関数的に拡張し、年々パワーが倍々で増加していくわけです。 したがって、私たち人類の思考力は 「無限に拡大していく」 ことになると述べています。

大変遅ればせながら約３年前、私たち日本は２０１５年末、野村総合研究所と英オックスフォード大学・工学博士M. オズボーン教授との共同研究で「今後１０～２０年およそ２０２５年頃から、日本国内の労働人口の約４９％がＡＩやロボットで代替可能になる」という報告書を発表し、雇用の消失という面から注目されています。

緩やかな生物学的進化に制限されている私たち人間は、指数関数的に進化するＡＩ（人工知能）と競争できず、「帰属的地位」「業績的地位」を取って代わられるということなのでしょうか？

ＡＩテクノロジーを使うことで、ガンや他の病気を遠ざけることができ医療・介護にも資する一方、同じテクノロジーを使いウィルスの毒性を高めたり拡散機能を拡大して、恐ろしい生物兵器・ＡＩロボット兵器に仕立てることもできます。
テクノロジーのもたらす「ポジティブな面」は、現時点で「ネガティブな面」を上回っていると思われますが、ネガティブな面も多くあるわけです。

ＡＩ（人工知能）が進化を続ける今日、医療現場において、日常生活において、更には テロや戦場において……、さまざまなレベルにおける「希望の拡大」と「危機の縮小」は、私達これからの人類が直面する大きな課題と言えるかもしれません。

新しい元号（年号）を迎えるにあたり、琉球の先人に習い 私自身の狭い知識や経験などをもとに、世界の流れや広い世界のことを論じたり、自社等の職場改革や国家全体の働き方改革を行ったり、様々な問題を自らの都合のいいように判断してしまう、独りよがりで見識の狭い者になることなく、グローバルな視野・総合的な視野 更には 天からの視点を持って、医療法人寿仁会「 理念 」【 ひたすら病める人々のために・健全なる人々の更なる健康増進のために・集いし職員（とも）の生涯修養の館たらんことを 】基本とし、皆様と共に１０年・２０年・５０年・１００年・３００年・・・先を見据えた価値観の創造に努め、全てにあたりたいと思うものです。

前後しましたが、 『 **謹んで新年のお喜びを申し上げます** 』 本年も宜しくお願い致します。

２０１９年
年頭所感

沖縄セントラル病院
医事課 佐久川 卓

何でも相談しやすい“支える事務部”を目指して

新年明けましておめでとうございます。

昨年１１月より医事課でお世話になっております佐久川 卓（さくがわ すぐる）と申します。
皆様は新年どのようにお過ごしでしょうか。各々素晴らしい１年の目標をお立てになったかと思います。私においては昨年を振り返ると１１月の入職から１２月の某部長退職のため、業務引継に追われ毎日、右往左往していたような気がします。

年初めに当たって、ここで少し私の部署を紹介させていただきます。
私が所属する医事課という部署においては診療報酬請求業務という病院運営において『医療の仕事を確実に収益につなげること』という責任重大ミッションを担っています。
近年、『チーム医療・多職種連携』という言葉をよく耳にしますが、その“連携”において私たち事務職員ができることは何でしょうか。

病院内の数多の専門職とコミュニケーションをはかり自院を取り巻く社会環境（内部環境・外部環境）の変化、医療介護界の動向に目を向け、分析による具体的な目標設定や、企画立案、仕組みづくりを通じて各部署が円滑に業務を進めることができるいわば“コーディネーター”の役割ではないかと私は考えています。

今年は皆さんの部署へ積極的にお邪魔して、情報交換をしたいと思っていますし、逆に皆さんも気軽に医事課へ足を運んでください。

最後になりますが私たち職員一人一人が経営者としての視点を持ち、また組織人として大仲理事長の目指すビジョンを共有し、実践することで医療法人寿仁会が邁進し輝かしい１年になるように職員一同力を合わせて共に頑張りましょう。

年頭にあたり、新たな一年が皆様にとって幸多き年になることを心より祈願致します。

～ ２０１９年 新春餅つき会より ～

病院の基本理念

- ひたすら病める人々のために
- 健全なる人々の更なる健康増進のために
- 集いし職員（とも）の生涯修養の館たらんことを

病院憲章

1．私たちの病院は、地域の人々の健康と福祉を保証し、併せて健やかなる人々の病の予防と更なる健康増進のために努めることを目的とする。
2．私たちの病院は、生命の尊重と人間愛を基本とし、常に医療水準の向上に努め、専門的・倫理的医療を提供するものとする。
3．私たちの病院は、病める人々中心の医療の心構えを堅持し、地域の人々の満足を得られるように意欲ある活動をするものとする。
4．私たちの病院は、何人も利用しやすく且つ便益を人々に公正に分かち合うサービスを志向するものとする。
5．私たちの病院は、地域医療体系に参加し、各々のもてる機能の連携により、合理的で効率的な医の成果を上げることに努めるものとする。
6．私たち職員は、たゆみない研鑽を積み、医療の錬磨と医道の高揚に努め、限りない愛情と責任を持って、地域の人々のために最善を尽くすものとする。

看護部の理念

1．地域の人々の、疾病の予防と健康増進の為に、検診から在宅看護まで一貫した看護活動をとおして地域に貢献します。
2．患者の身体的、精神的、社会的ニーズにお応えし、きめ細かな看護、介護の実践を目指します。
3．患者の人権を尊重し、質の高い看護、介護を提供する為に、看護研修や研究を継続します。

AMDA沖縄支部

ＡＭＤＡの実施する緊急医療救援チームへの医師・看護師の派遣。ことに、沖縄県からの移住者の多い中南米諸国での緊急医療救援活動にたいしては、貴重な沖縄からの医療人材の緊急派遣を行ってきたました。

設　立	１９９４年１０月４日設立
事務局	〒902-0076　沖縄県　那覇市　与儀１－２６－６　医療法人　寿仁会　沖縄セントラル病院内 TEL:098(854)5511　FAX:098(854)5519　E-Mail:o-centhl@nirai.ne.jp
支部長	大仲　良一

特定非営利活動法人アムダ
AMDA
沖縄

【 沖縄セントラル病院の歩み 】

1973(昭和48)年	沖縄中央脳神経外科　創立 創立者　医院長　大仲良一
1978(昭和53)年	沖縄セントラル病院へ院名改称 (９標傍科目)
1978(昭和53)年	生活保護法指定病院　登録
1978(昭和53)年	第一世代　頭部ＣＴ導入
1978(昭和53)年	リハビリ友の会結成
1979(昭和54)年	労働災害保険指定病院　登録
1980(昭和55)年	結核予防法指定病院　登録
1980(昭和55)年	国際騎士機構アジア地区第一号 「ナイト病院」称号　授受
1981(昭和56)年	病院長　紺綬褒章受賞(12月)
1983(昭和58)年	高気圧酸素療法装置　導入
1985(昭和60)年	全国法人会連合、人間ドック実施病院指定
1986(昭和61)年	被爆者一般疾病医療機関　登録
1988(昭和63)年	ＷＨＯ国際ロータリーよりインドにおけるポリオ及びコールドチェン調査の為に特命派遣
1989(平成元)年	国際奉仕：(インド：チャンドラ・セカラン氏6ヶ月間ポリオ後遺症治療受入)
1989(平成元)年	特例老人病棟増設
1989(平成元)年	国際奉仕：南インド・コインバトル州に「大仲記念奨学基金」発足
1989(平成元)年	航空特殊身体検査指定医療機関 登録(運輸省)
1989(平成2)年	健康保険組合連合会人間ドック実施病院指定
1990(平成2)年	中央労働災害防止協会健康測定指導機関定(労働省)
1990(平成2)年	ゼンセン同盟人間ドック実施病院指定
1990(平成2)年	病院創立20周年記念
1992(平成4)年	富士登山(職員15人)

【 沖縄セントラル病院の歩み 】

1994(平成6)年	医療法人寿仁会　沖縄セントラル病院　設立(病院長 大仲良一)
1994(平成6)年	AMDA(アジア医師連絡協議会)沖縄支部設立
1996(平成8)年	AMDA国際奉仕活動：ボスニア・ヘルツェゴビナ国より「PTSD」治療研修のためストジャコビッチ・ミラン医師を受入(一ヶ月)
1997(平成9)年	AMDA国際奉仕活動：フィリピン国へ医療用ベッド140床寄贈
1997(平成9)年	国際奉仕活動：ペルー孤児院シスター入院治療奉仕活動、ペルーリマ市に学校建設支援基金寄贈
1998(平成10)年	療養型病床(完全型)認可
1998(平成10)年	AMDA国際奉仕活動：ニカラグワ・ハリケーン被災者救援活動にDr. ルイス、Ns. 大城派遣(2週間)
2000(平成12)年	磁気共鳴断層撮影装置設置(MRI 0.5テスラー)
2000(平成12)年	介護療養型医療施設　認可
2000(平成12)年	指定介護支援事業所　認可
2000(平成12)年	AMDA国際奉仕活動：インド北部大震災に毛布290枚緊急支援
2001(平成13)年	AMDA国際奉仕活動：国際奉仕：ラオス共和国より医師、検査技師研修受入(1ヶ月)
2002(平成14)年	ガンマ・ナイフ手術装置設置(5月)世界各国で172台日本国内で37台目
2002(平成14)年	国際貢献：フォーラム参加(元国連事務次長 明石氏と大仲病院長)
2003(平成15)年	日本医療機能評価機構認定病院(長期療養型病院)第43号(1月)
2003(平成15)年	磁気共鳴断層撮影装置設置(MRI 1.5テスラー)
2003(平成15)年	メディカル・フィットネスセンターフローゲン設立(12月)厚生省認定
2004(平成16)年	パワーリハビリテーション設立(12月)厚生省認定
2004(平成16)年	日本脳神経外科学会専門医認定制度訓練施設　指定(7月)
2004(平成16)年	国土交通大臣表彰(7月)(病院長　大仲良一)
2004(平成16)年	健康増進施設認定規程第2条第1号に規程する健康増進施設認定　厚生労働省(9月)
2004(平成16)年	沖縄平和賞(AMDA)受賞(10月)
2004(平成16)年	沖縄県公衆衛生大会長表彰(11月)(病院長　大仲良一)
2005(平成17)年	スマトラ沖地震、大水害への緊急医療奉仕活動、大城七子看護師派遣(AMDA沖縄支部)(1月)

【 沖縄セントラル病院の歩み 】

2005(平成17)年	インドネシアへ緊急薬品570ケース搬送(JTA株式会社協力、1月)
2006(平成18)年	フィリピン・レイテ島災害へ救急医療救援活動のため薬品搬送(3月)
2007(平成19)年	ペルー地震への救急医療救援活動のため、渡久地医師を派遣(11月)被災者547人診療、医薬品送る
2008(平成20)年	日本医療機能評価認定病院(V5)
2008(平成20)年	療養型病床(2階)から一般病床(23床)へ変更(7月28日)
2010(平成22)年	ハイチ地震被災者に対する救急医療援助活動のため、渡久地医師を派遣(1月)
2010(平成22)年	療養型病床(4階)から回復期リハビリテーション病床へ変更
2011(平成23)年	高齢者専用賃貸住宅ユートピア沖縄完成に伴い通所介護施設(デイサービス事業) 指定介護支援事業所移動
2011(平成23)年	放射線科　パックス導入
2011(平成23)年	リマ市貧困地区における青少年のHIV/AIDS予防事業として活動を開始(8月～)
2011(平成23)年	リマ市貧困地区における青少年のHIV/AIDS予防事業として渡久地医師派遣(9月)
2012(平成24)年	リマ市貧困地区における青少年のHIV/AIDS予防事業として渡久地医師派遣(3月、11月)
2012(平成24)年	創立40周年記念事業 市民公開講座【切らずに治すがん治療】開催
2012(平成24)年	PFX ガンマナイフ パーフェクション導入(11月)
2012(平成24)年	フィリピン共和国における台風被災者救援活動に看護師喜久川 明日香さんを派遣 台風被害比へ看護師 アムタ 喜久川さん派遣
2013(平成25)年	ペルー共和国へエイズの保健活動(3年目最終年度)
2013(平成25)年	病院機能評価バージョン6.0認定
2015(平成27)年	韓国馬山大学校実習受入(2月)
2015(平成27)年	マンモグラフィ導入(3月)
2016(平成28)年	ラジオ沖縄にて沖縄セントラル病院プレゼンツ「フォーユー」放送開始(7月)
2016(平成28)年	ピンプ保育園、事業所内保育施設として市町村認可化(11月)
2017(平成29)年	ペルー洪水被災者に対する緊急医療支援活動のため、渡久地医師を派遣
2018(平成30)年	病院機能評価　機能種別版評価項目3rdG：Ver.1.1認定

国土交通省・高齢者居住安定化モデル事業／高齢者複合介護施設

医療法人　寿仁会
セントラル・ケアビレッジ

ユートピア沖縄

エントランス　ロビー　クリニック　屋上庭園　個室（洋室）

館内施設

- ○サービス付き高齢者向け住宅
- ○診療所
- ○デイ・サービス
- ○グループホーム
- ○訪問リハビリテーション
- ○訪問看護ステーション
- ○居宅介護支援センター
- ○訪問介護ステーション
- ○認可保育園
- ○職員独身寮
- ○理・美容室
- ○屋上庭園
- ○多目的ホール

ユートピア沖縄の充実したサービス・サポート体制

安心の医療サポート体制

併設された診療所で素早い対応が可能です。緊急時には、経営母体である沖縄セントラル病院をはじめ、近隣医療施設とのサポート体制を整えております。

充実した福祉サポート

デイサービスではヘルパーと共に作業療法士や運動指導士を配し共用スペースを活用して、健康と福祉という両面からサポートして参ります。

地域住民との文化交流

地域の方々との様々な交流の場として憩いの広場や多目的ホールを備え、ユートピア沖縄を核にした医療福祉循環構想を進めてまいります。

資料請求・お問い合わせ・入居受付は　TEL. 098-854-5551
〒902-0076　沖縄県那覇市寄宮２丁目１－１８

ホームページ　http://www.utopia.jyujinkai.or.jp/

施設見学随時ご案内致しております

外　来　担　当　医　師

■ 一般診療体制表

診療科	AM/PM	月	火	水	木	金	土
脳神経外科	AM	大仲	大仲	大仲	大仲	大仲	大仲
	PM	大仲	大仲	大仲	大仲	大仲	大仲
内科1	AM	石田	石田	石田	石田	石田	石田
	PM		井戸				石田
内科2（総合診療）	AM						
	PM	藤倉		藤倉	藤倉	藤倉	
心療内科	AM	石津医師　完全予約制（不定期　月1～2回）					
	PM						
外科	AM						
	PM	長島※1		長島※1	下地		
循環器内科	AM		鈴木（第2・4）	鈴木			
	PM	鈴木				鈴木	
整形外科	AM	守屋	大仲	守屋	守屋	守屋	琉大
	PM	大仲	大仲	守屋	守屋	大仲	守屋
皮膚科	AM				琉大		
	PM						
歯科	AM	當間・仲程	當間・仲程	當間・仲程	當間・仲程	當間・仲程	當間・仲程
	PM	當間・仲程	當間・仲程	當間・仲程		當間・仲程	

※1 外科・専門外来（乳腺外来・甲状腺外来・禁煙外来）

■ 特殊診療体制表

診療科	AM/PM	月	火	水	木	金	土
ガンマナイフ治療・外来	AM					森（第2・4）	森（第2・4）
	PM					森（第2・4）	森（第2・4）
高気圧酸素治療	AM	大仲	大仲	大仲	大仲	大仲	大仲
	PM	大仲	大仲	大仲	大仲	大仲	大仲

■ 健康診断・精密検査

診療科	AM/PM	月	火	水	木	金	土
内視鏡検査	AM	長島	長島	長島	下地		琉大
健診・人間ドック	AM	大仲・井戸	大仲・井戸	大仲・井戸	大仲・長島	大仲・井戸	大仲・井戸
乳がん検診	AM	長島	長島	長島	長島		
内科健診	AM	石田	石田	石田	石田	石田	石田
婦人科健診	AM	大仲	大仲	大仲	大仲	大仲	大仲

■受付時間　午前　8:30 ～ 12:30　午後　13:30 ～ 17:30
■診察時間　午前　9:00 ～ 13:00　午後　14:00 ～ 18:00

❖ガンマナイフセンター　直通：(098)854－5516
❖医療福祉課　直通：(098)855－7200
❖メディカルフィットネスセンター「フローゲン」　直通：(098)854－5541
❖健康管理センター　代表：(098)854－5511

寿仁会ホームページ
ＱＲコード

●人間ドック　●脳ドック　●一般検診　●特殊検診（航空身体検査・高気圧業務検査）
●健康増進サービス機関（厚生労働省認可）　●付属リハビリテーションセンター

発行人：大仲　良一　　編集：地域医療対策広報委員会